

経営史 I

科目ナンバリング MAN-220
選択必修 2単位

飯塚 陽介

1. 授業の概要(ねらい)

本講義では、19世紀以降の欧米諸国及び日本におけるビジネスのあり方を概論します。春学期は、日米欧における「現代企業」の出現にいたる時期までを対象とします。本講義は歴史の講義ではあるけれども、網羅的かつ微細な知識の提供を主たる目的とはしていません。むしろ、ビジネスのあり方における時代・地域に応じた多様性をそれを生み出した背景とともに知ること、現在のビジネスのあり方を相対化し、将来の発展方向を予見する上で有効な考え方を修得することを目的としています。講義内容についての確認小テストをLMS上にて毎回実施します。

それと同時に、履修者には、自分の手と足で主体的に企業の歴史を調査する経験を積んでもらいます。その成果は、学期末に長文のレポートとして提出してもらいます。

2. 授業の到達目標

- 到達目標(1) 現代企業が出現した経緯を説明できる。
- 到達目標(2) 日米欧の現代企業の相違を知り、それを歴史的な背景から説明できる。
- 到達目標(3) 歴史的な視座から企業・産業のあり方に対して関心を持つ。
- 到達目標(4) 企業・産業の歴史についての文献を収集できる。
- 到達目標(5) 収集した文献を用いて、企業・産業の歴史を論じることができる

3. 成績評価の方法および基準

- 評価基準(1) LMS上での毎回の確認小テスト(30%)(到達目標(1)(2)と関連します。)
※翌週までにLMSにて添削・返却。
- 評価基準(2) 研究計画書の提出(10%)(到達目標(3)と関連します。)
※第9回講義までにLMSにて添削・返却。
- 評価基準(3) 期末レポートの提出とその内容(60%)(到達目標(4)と(5)と関連します。)
※提出後2週間程度でLMSにて添削・返却。

4. 教科書・参考文献

参考文献

鈴木良隆・大東英祐・武田晴人 『ビジネスの歴史』 有斐閣

5. 準備学修の内容

- (1) 学期を通じて、毎回の確認小テストに備え、復習する。
- (2) 学期最初の数週間は研究計画書を作成する。
- (3) 学期後半は各自のテーマに沿って「任意の企業・産業についての独自レポート」(A4・3枚以上、必ず関連文献を参照)をまとめる(詳細は講義中で解説)。
- (4) (3)の活動の一環として、休日や講義の空き時間を利用して社史資料を所蔵する学外の図書館(神奈川県立川崎図書館、国立国会図書館など)や企業博物館を訪問する。

6. その他履修上の注意事項

本講義では独自研究を伴う期末レポートの提出を要請しています。私の担当している他講義と比較して、主体的に学ぶ姿勢をとりわけ求める講義となっています。安易に出席をするのみでは単位の修得は不可能です。独自の調査を行うことは未知の経験という履修者も多いでしょうが、MELICにも収蔵されている社史類を利用したり、各地の企業博物館を訪問してみてください。なお、調査テーマについての重複は、講義中になるべく調整をします。

7. 授業内容

- 【第1回】 講義「オリエンテーション」(本講義の概要と成績評価の指針、経営史学概説)。
- 【第2回】 講義「規模の経済の発見と企業者活動」(産業革命期の英国において「規模の経済」はいかに発見されたのか?)。
- 【第3回】 講義「市場経済の中の企業」(産業革命期の企業活動はあくまで「市場」による調整を前提としていた)。
- 【第4回】 講義「在来産業における変化と革新」(産業革命期に在来産業において生じた革新とは?)。
- 【第5回】 講義「産業革命と金融ビジネス」(産業革命は金融ビジネスに支えられていた)、研究計画書の提出。
- 【第6回】 講義「大量生産体制への途」(アメリカでの大量生産への模索)。
- 【第7回】 講義「研究計画の調整と指導」(履修者間で研究テーマの重複を調整します。調査についてのガイダンスを行います)。
- 【第8回】 講義「市場の調整(見えざる手)から管理的調整(見える手)へ」(19世紀アメリカにおいて市場的調整を代替する大企業はなぜ出現したのか?)。
- 【第9回】 講義「専門経営者と経営階層組織」(19世紀アメリカにおいて経営階層組織はどのように、そしてなぜ発達したのか?)。
- 【第10回】 講義「経営者企業の成立」(さらに発達を遂げるアメリカ大企業の経営階層組織)。
- 【第11回】 講義「ヨーロッパにおける現代企業の登場」(19世紀末、ヨーロッパにおいても「大企業」が出現した)。
- 【第12回】 講義「ヨーロッパ大企業の組織と管理」(ただし、ヨーロッパ大企業はその組織においてアメリカの大企業とは異なる特徴を備えていた)。
- 【第13回】 講義「日本における大企業の登場」(欧米に対して後発国である日本に大企業が出現した理由は?)。
- 【第14回】 講義「両大戦間期日本のビジネス」(大企業・財閥の存在感が高まる両大戦間期の日本について論じます)、期末レポートの提出。
- 【第15回】 講義「産学連携とハイテク産業集積の形成」(米国と中国のハイテク産業集積の形成について論じます)。 ※オンラインを予定。講義の進捗状況によっては別内容とします。